

2. 「魅力ある学校」づくり構想の検討状況説明会・質疑応答（概要）

○日 時：平成 28 年（2016 年）11 月 6 日（日）14 時～16 時

○場 所：庄内公民館

質問・意見等	豊中市からの回答
<p>今回の構想案に係る懸念や質問などをまとめて、下記のとおり伝える。</p> <p>○千成小学校の敷地は、昔は堤防で、三菱瓦斯化学工場の廃棄物捨て場跡地であり、付近には墓もあった。神崎刀根山線工事の時には、神州町 2 番 55 号で有害物質の六価クロムが検出されて、土の入れ替えをした。新しい学校を千成小学校の敷地に建設するとのことだが、土壌汚染が懸念される。千成小学校付近は工場地帯のため、子どもの健康に不安がある。</p> <p>○危機管理課が作成している浸水想定区域図によると、南海トラフなどの大地震によって津波が発生した場合、千成小学校付近は 2～5m 未満の水位になると予測される。</p> <p>○庄内南小学校の一部の敷地を地主から借りていると聞いた。昭和 25 年に開校して以来、66 年間借地として借りているが、なぜ購入しなかったのか経緯を教えてください。地主との契約が切れたら、その後はどうなるのか。また、庄内南小学校は防災避難場所に指定されているが、どうなるのか。</p> <p>○せんなりこども園を庄内南小学校の跡地に移転するという噂がある。</p> <p>○第七中学校に施設一体型小中一貫校を新設してほしい。庄内西小学校、庄内南小学校の子どもも通うのが近いので、通学の安全面からお願いしたい。</p> <p>○人口減少が進んでいるが、例えば、伊丹市には転入促進事業という制度があり、市外からの転入者に対して金銭的に補助する取り組みが行われるなど、人口減少に対する施策があるが、豊中市は何もしていない。</p>	<p>1 点目、千成小学校の敷地の経緯はご指摘のとおりであり、把握しております。千成小学校の跡地に南校を整備することを検討していますが、まだ構想段階であり、決定したものではありません。計画が策定され、千成小学校の跡地に南校が整備されることが決定した場合、所定の法律に基づき、土壌汚染に関する調査など、必要とされる対策を講じて建設工事に着手したいと考えております。現時点において、千成小学校及びせんなりこども園に通う子どもたちに健康被害が生じているわけではありませんので、その点は誤解がないようお願いします。</p> <p>2 点目、南海トラフ等の大地震による津波の懸念については、校舎など高いところに避難できるよう、施設面からも安全対策を考えていきたいと考えています。</p> <p>3 点目、庄内南小学校の敷地の一部が借地であることについては、地主の意向で買い取りができないという事情があり、借地料を支払って使用しています。今後の土地の扱いについては、計画内容によって、検討すると地主はおっしゃっています。借地契約が切れたからといって、直ちにその土地として使用できなくなるということはないと考えています。</p> <p>4 点目、せんなりこども園の移転については、まだ何も決まっていません。市では、将来予測される子どもの数の減少を見据え、中長期的な課題として公立こども園の適正配置について計画的に取り組むための基本的な考え方や方向性を示した「公立こども園の適正配置に向けた基本方針」を平成 28 年（2016 年）9 月に策定しました。今後、せんなりこども園を含め、公立こども園の実施計画について検討を進める予定です。</p> <p>5 点目、第七中学校の敷地に施設一体型小中一貫校を整備してほしいというご意見については、まだ決定したのではなく、今後、さまざまなご意見をいただきながら、検討していきたいと考えています。</p> <p>最後に、豊中市は人口減少に対する施策を何もしてこなかったというご意見については、かつて本市でも新婚世帯への支援など、さまざまな施策に取り組んでまいりました。財政状況や費用対効果などを勘案し、現在の取り組み状況になっています。全市的には人口減少に歯止めをかけることを目的に、平成 27 年度（2015 年度）に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、合わせ</p>

	<p>て、市政運営の根幹となるまちづくりの目標を示す「総合計画」も見直しを進めているところです。南部地域については、子育て環境や教育環境を整えることが喫緊の課題であると認識おり、平成 29 年度（2017 年度）には南部地域におけるまちづくりの方向性などを示した「（仮称）南部地域活性化構想」を策定したいと考えております。</p>
<p>再編スケジュールについて、北校の仮校舎が野田小学校、第十中学校の跡地になるということだが、北校に通うことになる全員が、仮校舎に通うのか。</p>	<p>北校の仮開校について、小学校は平成 32 年度（2020 年度）から庄内小学校、野田小学校、島田小学校の子どもたちが野田小学校の敷地に通うこととなります。中学校は第十中学校の敷地に通うこととなり、新 1 年生は庄内小学校、野田小学校、島田小学校を卒業した子どもたち、新 2 年生及び新 3 年生は第六中学校と第十中学校の在校生が集まることとなります。今現在、野田小学校の東棟は、コミュニティルームなど、主に地域の方が利用されていますが、仮開校の際は、東棟も普通教室として使用する必要があると考えています。平成 31 年度（2019 年度）には、仮開校ができるように野田小学校及び第十中学校の改修工事を想定しています。ただし、今、お示ししている再編スケジュールはあくまで想定であり、決まったものではありません。</p>
<p>私は今、島田小学校区の端に住んでいる者である。仮開校時に野田小学校まで通うことになると、距離的にかなり遠くなり、低学年が通えるのか心配である。</p>	<p>島田小学校区の庄内宝町付近から野田小学校までは約 2 キロあり、小学校 1 年生の通学距離としてはやや遠いという認識はあります。本日はご意見としていただき、今後の検討の参考とさせていただきます。</p>
<p>せんなりこども園は、来年の春で入園募集がなくなると聞いた。せんなりこども園が廃園になった場合、近隣のこども園は、すでに満員状態なので、待機児童が出るのではないか。 私の子どもは、庄内こどもの杜幼稚園に通っているが、せんなりこども園がなくなるといふ噂もあってか、認定こども園になってから、園児数が大幅に増えた。実際にせんなりこども園がなくなれば、もっと園児数が増えるのではないか。</p>	<p>せんなりこども園については、廃園になると決まったわけではなく、入園募集の廃止についても何も決まっていません。公立のこども園につきましては、「公立こども園の適正配置に向けた基本方針」（平成 28 年（2016 年）9 月策定）に基づき、将来予測される小学校就学前の子どもの数の減少を見据え、適正な配置を計画的に取り組んでまいりたいと考えています。</p> <p>庄内こどもの杜幼稚園は、認定こども園になり、今までの幼稚園児に加えて、保育が必要な子どもたちも入園できるようになったので、全体の園児数が増えたという背景があります。せんなりこども園がなくなるからという理由で、園児数が増えたものではないと認識しています。</p>
<p>通学にかかる安全対策について、仮開校中も対策を講じてくれるのか。 私の子どもが阪急西側南線を通して、習い事に通っているが、歩道がなかったり、路側帯が狭かったりするのので、通学路に指定するのは危険だと感じる。どのように安全確保するのか。</p>	<p>本日は時間の都合上、説明できませんでしたが、仮開校時を含め、北校、南校の想定される全ての通学経路について検討を進めています。阪急西側南線は、歩道や路側帯などが十分に整備されておらず、北校に通わせることは危険であると認識しております。北校に通学するルートについては、できるだけ既存の通学路を活用しながら、校区間の接続ポイントを中心に安全を確保してまいりたいと考えています。</p>

<p>夏季における通学について、年々気温が上昇している状況で、重たい荷物を持って、アスファルトの道路を長い距離通わせるのは、熱中症になる恐れもあり、心配である。</p>	<p>夏季の暑さ対策として、学校や家庭での水分補給、水筒を持たせるなどの対策に加えて、例えば、地域の方などに、通学時に見守っていただき、万が一のときにすぐに対応していただくという方法も可能性として考えられます。計画策定後、開校準備にあたって、保護者や地域の方に意見をいただきながら、必要な対策を講じてまいりたいと考えています。教育委員会や学校だけで、全てを解決することはできませんので、引き続き、ご協力いただきますようお願いいたします。</p>
<p>小中一貫校のメリットばかりを説明しているが、他市の小中一貫校では課題も多いと聞いている。小中一貫校の整備を進めているが、これは誰が発案したものか。文部科学省から言われて進めているのではないか。</p> <p>平成 27 年に文部科学省が通知した「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」では、「学校規模の適正化や適正配置の具体的な検討については、行政が一方向的に進めるのではなく、保護者や地域住民の十分な理解と協力を得るなど地域とともにある学校づくりの視点を踏まえた丁寧な議論を行うことが望ましい。」と指導している。我々の声をもっと聞くべきである。本日もそのための説明会ではないのか。</p>	<p>不安なお気持ち、しっかりと受けとめさせていただきます。教育委員会といたしましては、「魅力ある学校」づくりは、あくまでも皆様のご意見を伺いながら進めていきたいと考えております。小中一貫教育は、義務教育 9 年間で小中の教職員が一貫した考え方や目標を持って指導し、社会で生きていくために必要な力を具えた子どもを育もうとする取り組みです。小中一貫教育は全国的にも事例があり、文科省によりますと、平成 26 年度（2014 年度）で 211 自治体、1,130 件の取り組み実績があります。本市においても、小学校と中学校の連携は、従前より、各中学校区別の状況に応じて、進めてきました。教育委員会では、これまでの取り組みの実績に加え、先進事例も参考にしながら検討を進めていますが、小中一貫教育は、特に庄内地域の子どもたちに有効であると考えています。一方で、小中一貫教育の取り組みは千差万別であり、施設形態や整備内容等によって課題があることも事実です。今回、お示ししている施設一体型に関して、小学校 1 年生から中学校 3 年生まで 9 学年が一緒に生活することへの不安や懸念も多くご意見としていただいておりますが、施設面や運営面の工夫により対応できるものと考えています。繰り返しになりますが、引き続き、保護者や地域の皆様のご意見を伺いながら、進めていきたいと考えております。</p>
<p>私は放課後子どもクラブの指導員をしている者である。2 月の説明会でも、今回の説明会でも放課後子どもクラブについて説明がないので心配になっている。現在、私が勤務している島田小学校では約 50 人が放課後子どもクラブに入会している。庄内小学校と野田小学校の子どもたちを含めると、3 校で約 150 人になる。新しい学校や仮開校時に、約 150 人の児童が安全に過ごせるスペースを確保してくれるのか。</p> <p>放課後子どもクラブの子どもたちは、原則、午後 5 時に下校するが、冬季には真っ暗になる。通学距離が伸び、暗い中を子どもたちだけで、下校させるのは不安なので、しっかりと安全対策をしてほしい。</p>	<p>放課後子どもクラブに所属する児童数は、年々増加傾向にあります。現在は、小学校の空き教室を活用し、子どもたちが過ごすスペースを設けています。新しい学校においても、今の方針を引き継いでいけるように、こども未来部と教育委員会が連携して取り組みを進めていきたいと考えています。</p> <p>子どもたちの下校時の安全確保は、非常に重要な課題と認識しています。保護者や地域の方にもご協力いただきながら、子どもたちの安全確保に努めてまいりたいと考えております。</p>

授業について、小学校は 45 分、中学校は 50 分で、チャイムが鳴る時間が異なるが、中学生が試験を受けているときなど、小学生の声がうるさくて集中できなくなるのではないか。逆に、小学生は中学生が授業中だということで、のびのび遊べないのではないか。お互い我慢することにならないか。

庄内地域では、小学生は中学生を怖がる傾向があるので、一緒に過ごすとなると、小学生が委縮するのではないか。小学校は小学校、中学校は中学校で統合すれば良いのではないか。

北校に(仮称)南部コラボセンター(以下「南部コラボ」)を併設する予定になっているが、どうしても併設しないといけないのか。例えば、庄内出張所を建て替えて、南部コラボを整備すれば、北校のグラウンドが広くとれるのではないか。グラウンドが狭いと、小学生は中学生に遠慮して遊べなくなるのではないか。

授業の時間については、新しい学校でも、小学校は 45 分、中学校は 50 分になると想定しています。小学校と中学校のチャイムのずれについて、先進事例をみますと、ノーチャイムや、2 秒だけチャイムを鳴らしたり、フロアやゾーンごとに教室配置したりするなどの工夫がみられます。新しい学校においても、施設面で空間や動線等を工夫しながら、小学生、中学生双方の弊害にならないようにしていきたいと考えています。

生徒指導上のご心配について、先進事例では、小学生と中学生と一緒に過ごすことによって、下級生は上級生をみて憧れの気持ちを抱いたり、上級生は下級生の見本になろうとしたりするなど、さまざまな成果が報告されています。本市においても、各中学校区で小中連携の一環として、異学年交流を行っておりますが、豊かな人間関係が築けるなどプラス面が多いと実感しています。

(仮称)南部コラボセンターの候補地については、基本構想で想定している 5 つの基本機能を備えるために、概算ですが、約 9,000 m²の床面積が必要であると考えています。庄内出張所の敷地面積は約 2,000 m²で、容積率は敷地面積の 2 倍が上限になりますので、庄内出張所の敷地には約 4,000 m²の床面積しか設けられないこととなります。第六中学校の跡地を使用する場合、敷地面積が約 5,000 m²あれば、床面積の上限が 10,000 m²になりますので、十分な床面積が確保できます。また、第六中学校は、庄内地域の中心に位置していますので、皆さんにとって利用しやすい立地になると考えています。加えて、学校と(仮称)南部コラボセンターを併設することで、福祉等の分野と連携するなど、多様な教育活動が期待できます。

通学路の安全が不安である。なぜ、スクールバスの導入を検討しなかったのか。

スクールバスについては、検討を進めてきましたが、現時点でスクールバスの導入は考えていません。場所によっては通学距離が長くなる地域もありますが、市内の他小学校の状況と比較して、著しく通学距離が長くなるとは考えていません。今現在、市内の小学校で最も長い通学距離は、豊島小学校区での約 1.6 キロです。また、歩いて通うことによって、子どもたちの体力の増進にもつながると考えています。今後、各校区で個別に説明会を行い、いただいたご意見を参考にしながら、さらに検討を進めます。